

歴史－4 こくぶんじ かわら 国分寺瓦

100年余り前まで宮崎県は"日向国"と呼ばれて
いました。日本最古の歴史書『日本書紀』や、
『先代旧事本紀』『続日本紀』にその名を見ることが
できますが、日向国は7世紀末に成立したとい
われ、江戸時代まで行政区画として公式に存在し
ていたのです。



律令国家の時代、国の中心となる役所として「こくが国衙」が置かれていましたが、その所
在地は、西都市右松の寺崎遺跡であったことが明らかになっています。寺崎遺跡からは
アジアの影響をもつ国分寺瓦が出土しており、軒平瓦、軒丸瓦の文様は「忍冬唐草文様」
と呼ばれ、インド・ササン朝ペルシアに見られるものです。国分寺が全国におかれ、仏
教が地方へ広がり始めたことを意味しています。